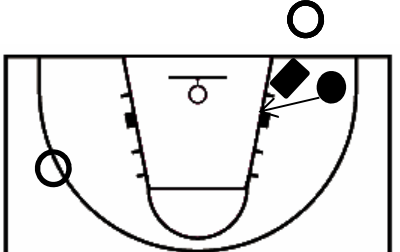


審判員名	伊 東 龍 一	相手審判	①副島(愛知・副) ②竹本(岐阜・副)
------	---------	------	------------------------

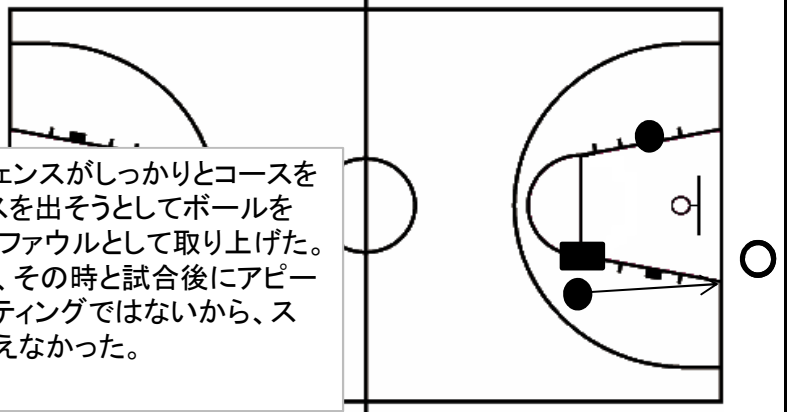
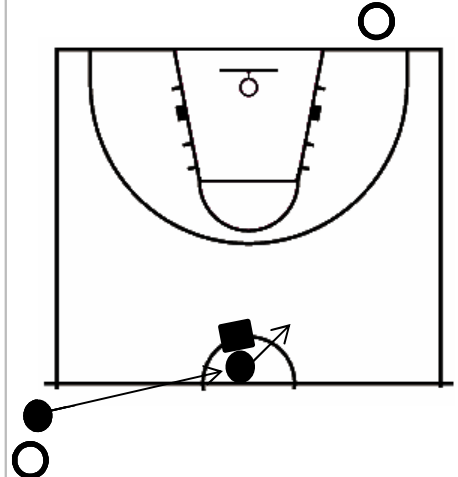
カード	①女子予選リーグ：石川 対 愛媛 ②男子予選リーグ：福井 対 京都
-----	--------------------------------------

◇ ケース・ポジションについて



トレイル(自分)はショットに対してのファウル、リード(相手)はトラベリングを宣した。同時に笛が鳴り、近い審判のトラベリングとしたが、攻撃側チームは不満をもってしまった。

4Q残り5秒からの逆転をかけた最後の攻撃のスローイン。パスが入りドライブが始まった瞬間に触れ合いがあった。リード(自分)から見ていてファウルと感じたが、遠く笛を吹かなかった。ショットに行けずに試合終了。試合後、攻撃チームから相手審判にファウルでなかったかアピールがあった。ファウルを取り上げてもう一度攻撃させた方がよかったのかもしれない。



試合終盤、リングに向かうドライブをディフェンスがしっかりとコースを守り、オフェンスは明らかにショットでなくパスを出そうとしてボールをキャッチした。そこにディフェンスの手が出てファウルとして取り上げた。ベンチからは、なぜフリースローでないのか、その時と試合後にアピールがあった。コーチには、「アクトオブシューティングではないから、スローインにした。」と説明したが納得してもらえなかった。

◇ ミーティングの内容

《① 石川 対 愛媛》

・力のあるチームが勝ったと思うが、終わり方がよくなかった。負けてしまったチームはとても後味が悪くなってしまった。その原因は、ディフェンスの悪い手の使い方の整理がきちんとできていなかったこと、試合終盤でのフリースローバイオレーション、トラベリングとファウルで両審判の判定の違っていたこと、取り上げてほしいファウルを取り上げてもらえなかったことなどから、負けたチームにフラストレーションがたまってしまった。

《審判主任》宮里(兵庫)

《② 福井 対 京都》

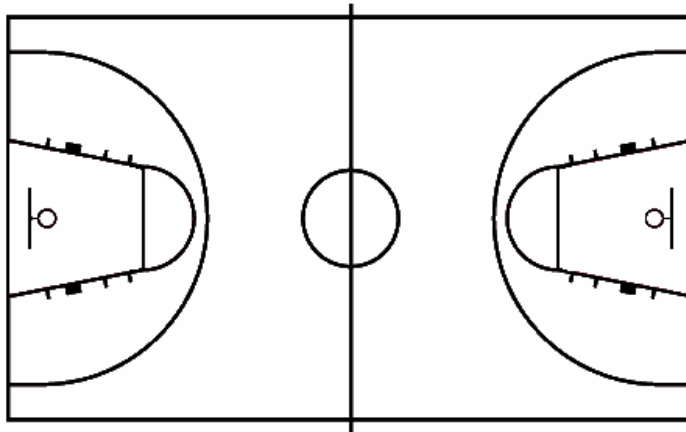
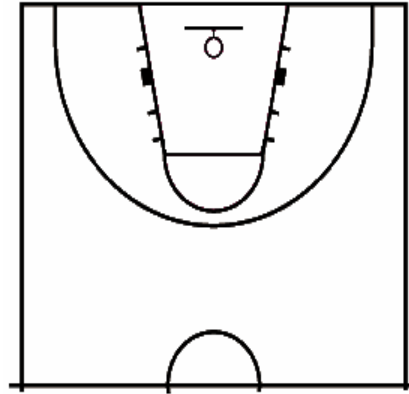
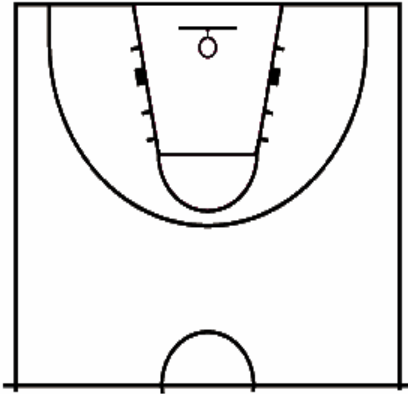
・お互いに無理をせず締まった雰囲気試合となり、審判の判定一つ一つがとても目立ち、ミスコールの許されない試合だった。

・全体的に取り上げるべきものは取り上げていた。ただ、最後の残り5秒でのスローイン後の接触はファウルとして取り上げて、もう一度攻撃のチャンスを与えてもよかったのではないか。

《審判主任》松原(香川)

審判員名	赤羽沙耶	①主:北場(大阪)②主:小笠原(青森)③主:上杉(委員会)
カード	①28日 青森-佐賀 ②29日 石川-愛媛 ③30日 茨城-大阪	

◇ ケース・ポジションについて



◇ ミーティングの内容

①《3月28日 女子予選リーグ 青森 対 佐賀》

・ファールの種類が違うものがあった。 《審判主任》鈴木(北海道ブロック長)

・マンツーマンコミッショナーがベンチと話している時に少し様子を見ても良かった。

・リードに入るのが遅い。 《渡邊諭氏》

・リードの時に自分のエリア外からのドライブに目を当てるのが遅い。

・2人で協力してゲームにマッチした笛が鳴らせていた。自分から見えないものは相手に任せ、2人で見るべきものはしっかり2人で鳴らせていた。

・オフェンスが時間を使ってゆっくり攻めている時でもトレイルは膝が伸びきらないように常に動いていること。 《小坂井氏》

・エリア123からのドライブでリードが見るべき最初のところから見られるように早めにリードは受ける。

②《3月29日 男子予選リーグ 石川 対 愛媛》

・後半ビッグマンが2人左右のローポストにいて、リードで見るところが定まらず、支柱辺りにいすぎた。 《審判主任》越川(和歌山)

③《3月30日 女子Cブロック決勝 茨城 対 大阪》

・全体的に弱い。笛もペネトレイトも。もっと自信を持って。 《審判主任》山田(四国ブロック長)

・ニュートレイルでボールを追うのが遅い。